

大阪市におけるイノベーションを 促進するまちづくり

2019年3月20日

大阪市都市計画局 荒木 敏

本日のご報告内容

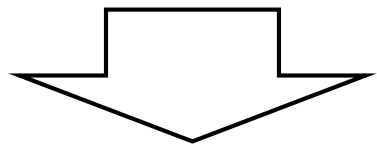
- ① 都市再生制度を活用したイノベーション
創出への取り組み
- ② 「うめきた」 2期開発の中核機能

① 都市再生制度を活用した イノベーション創出への取り組み

都市再生制度にかかる経緯

2002年

- ・都市再生特別措置法*¹制定
- ・工場等制限法*²廃止

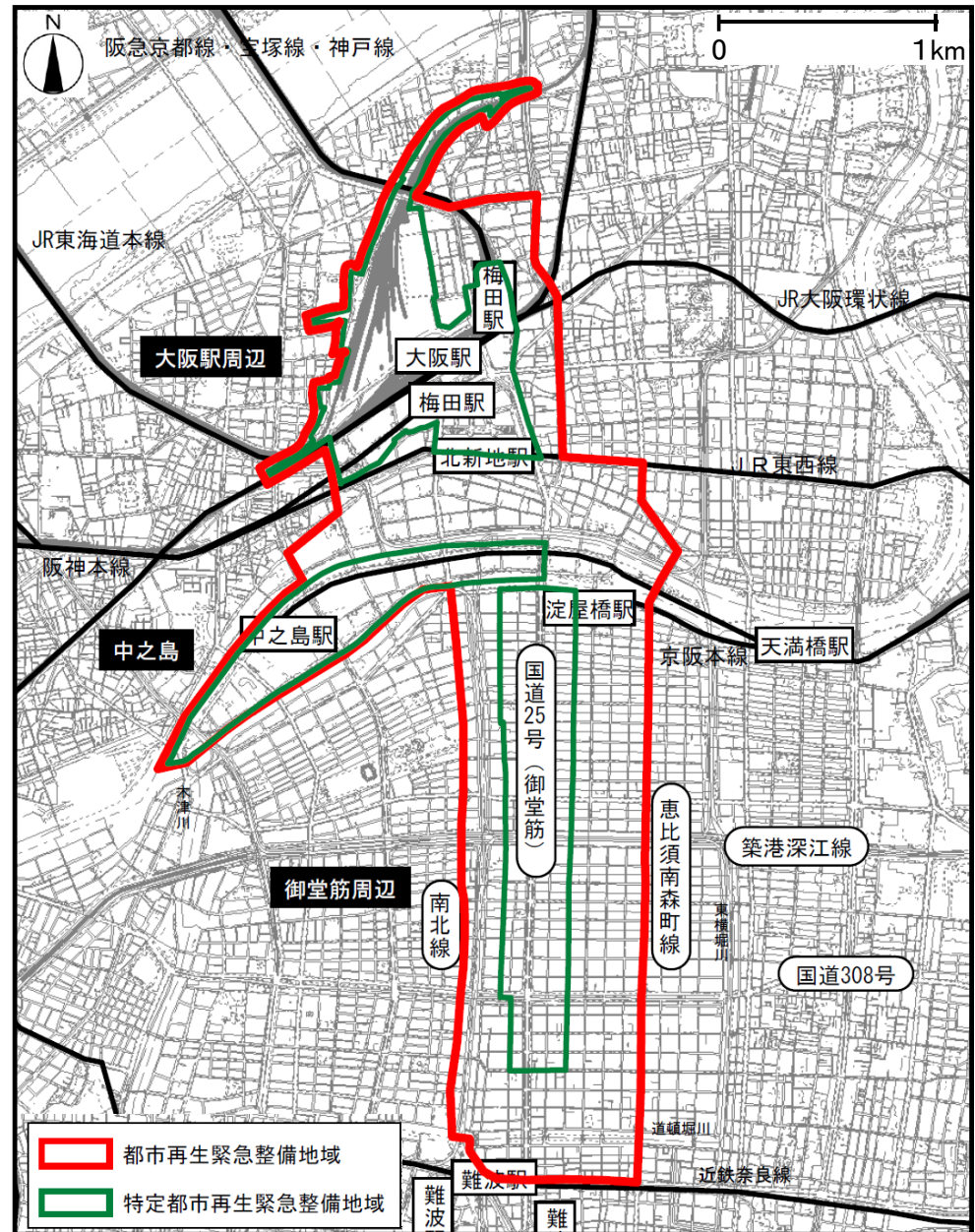


大阪市内では、大阪駅周辺や
難波、阿部野、臨海部など、
約700haが都市再生緊急整備
地域に指定

*1:都市再生緊急整備地域のうち、都市の再生に貢献するなどの区域を都市再生特別地区として都市計画に定め、容積率等の最高限度等を定めることができる

*2:原則1,000m²以上の工場や、大学の新設・増設などを制限
(近畿圏は1964年に制定)

【大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域】

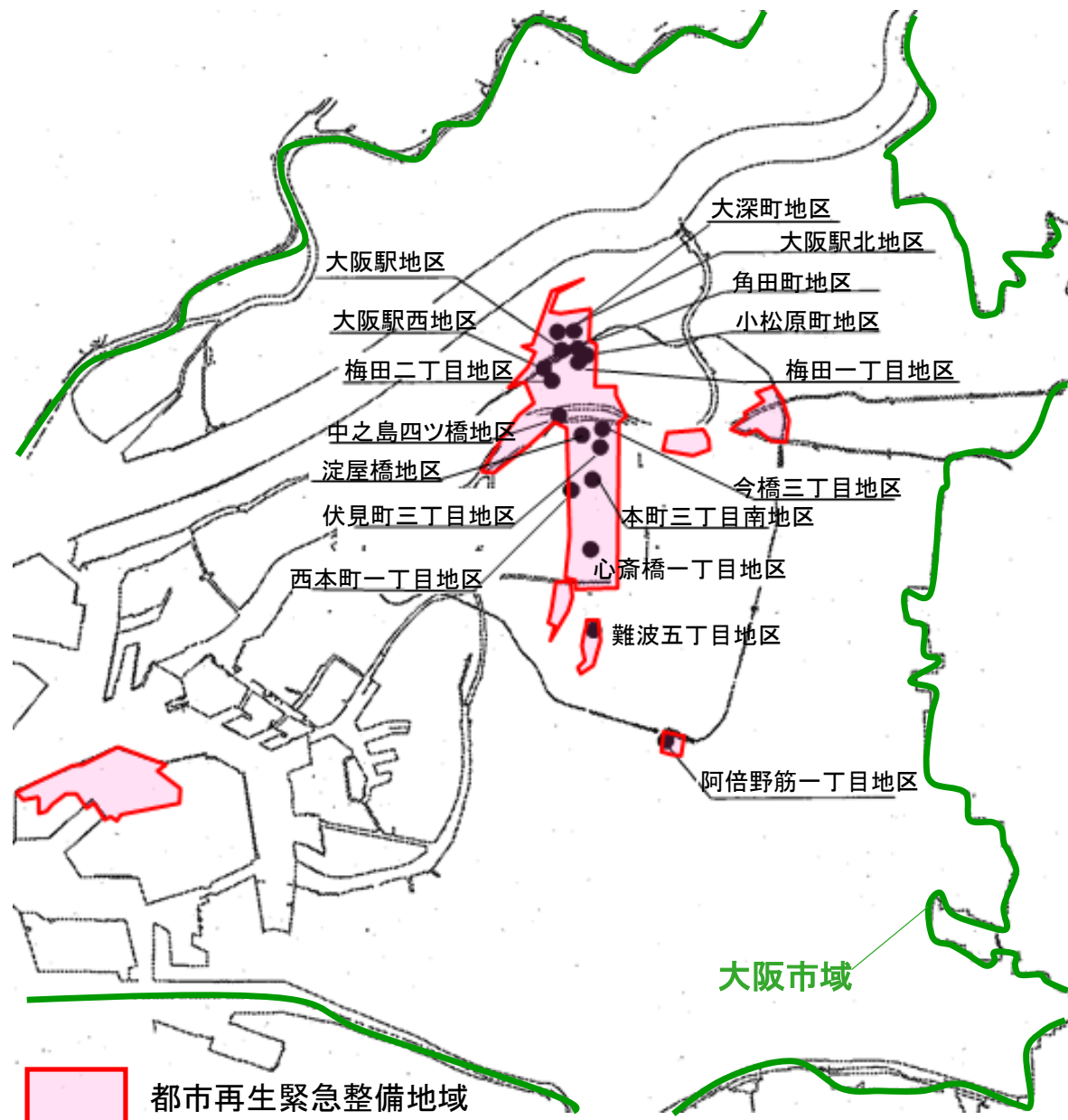


都市再生特別地区の活用

- 指定区域：17地区(総面積約38ha)
- 竣工済の建物総延床面積：約215万㎡
- 工事中の建物総延床面積：約55万㎡

都市再生のねらい

- 都市機能**
 - 知の集積・イノベーション
 - 文化・芸術・交流
- 都市空間**
 - 広場や歩行者空間の充実
 - 新しい景観の創出と保存
 - 道路の上空利用



都市再生制度等を活用した民間開発の取り組みと制度の効果(1)

出典: 関西大学HP

1. 知の集積～大学の都心回帰・誘導～

- ・都市再生制度等を活用した大規模再開発を契機に都心での大学回帰が進んでいる。
- ・あわせて、スタートアップ支援施設を設置するなど、交流の場が創出されている。



- ・関西大学 KANDAI Me RISE
2016年開校
スタートアップ支援のためのカフェ
START UP CAFE OSAKA を設置

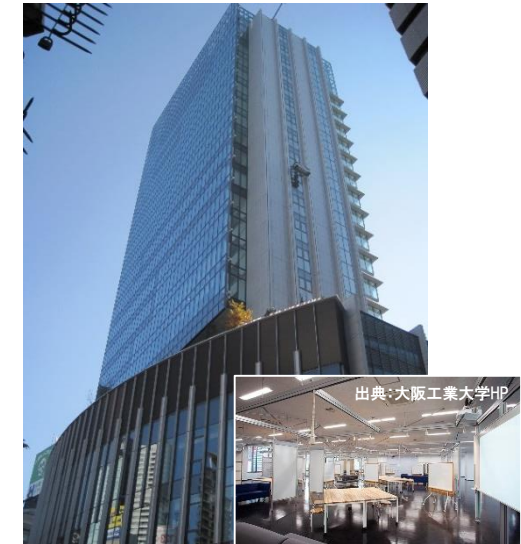
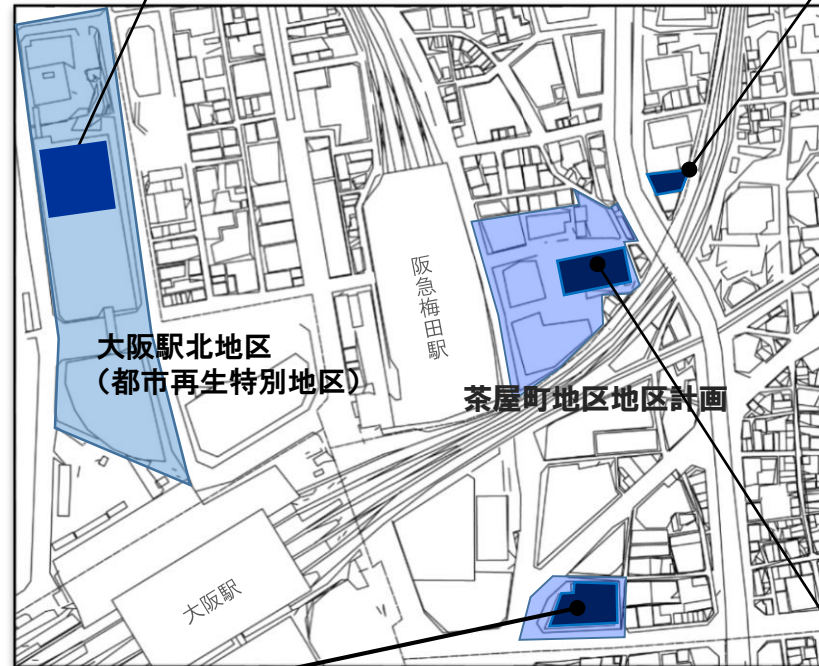


○小松原町地区 都市再生特別地区 (大阪富国生命ビル)

- ・京都造形芸術大学
大阪サテライトキャンパス
2010年開校
- ・立命館大学 大阪梅田キャンパス
2011年開校

ナレッジキャピタル(2013年開業)

- ・大阪大学、大阪市立大学、慶応大学
など4大学がサテライトキャンパスを
設置(2018年4月現在)



出典: 大阪工業大学HP

- ・大阪工業大学 OIT梅田タワー(2017年開校)
都市型オープンイノベーション拠点
「X-port」を設置
(梅田東小学校跡地を都市計画決定)

都市再生制度等を活用した民間開発の取り組みと制度の効果(2)

2. 知の集積～知の集積と交流～(1)

○難波五丁目地区 都市再生特別地区 (なんばスカイオ 2018年開業)



～世界的シェアリングオフィス「WeWork」の関西初拠点誕生～

世界22カ国で25万人を超えるメンバー数を誇る米国発のシェアリングオフィス「WeWork」が関西に初拠点を開設



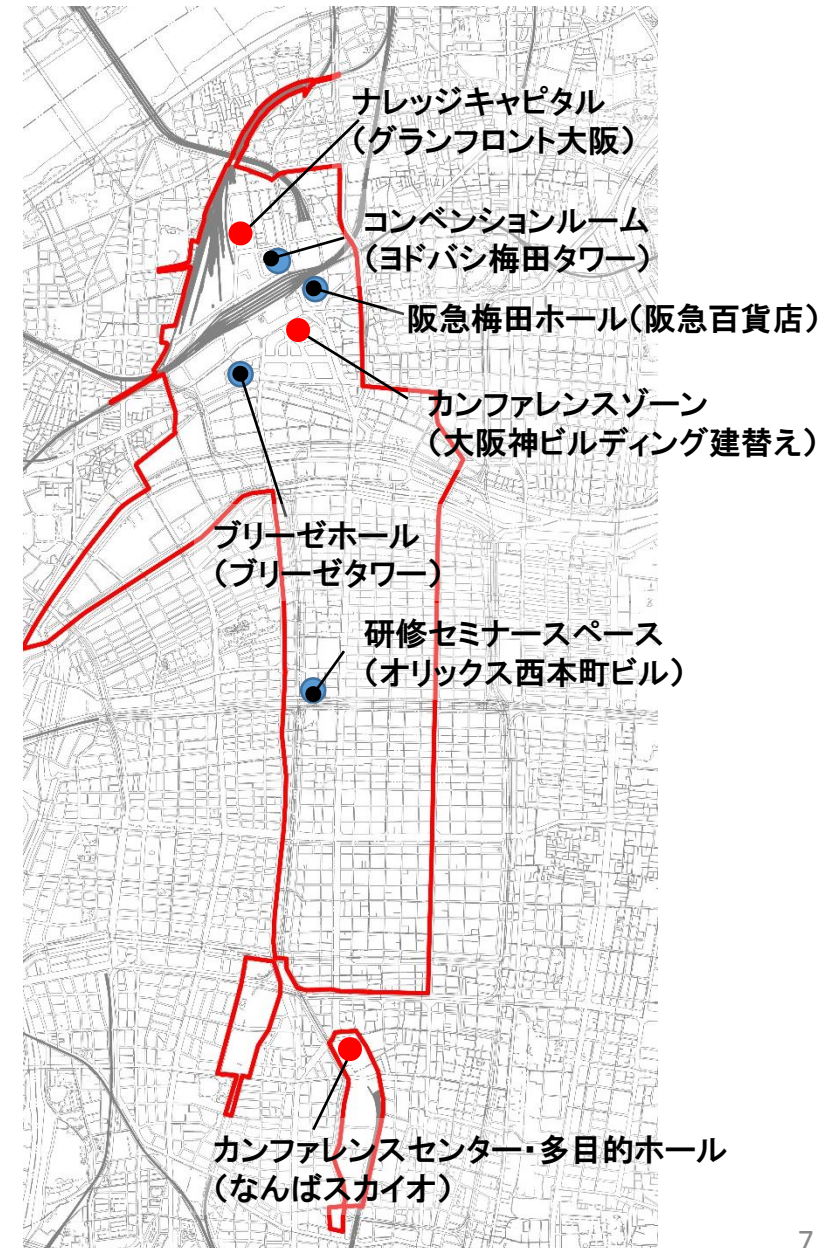
[ワークスペースの概要]

- (1) 入居フロア 26階・27階・28階
- (2) サービス開始 2018年12月
- (3) サービス内容
プライベートオフィス、会議室、共用ラウンジなどの多彩なコワーキングスペースを提供

○梅田一丁目地区 都市再生特別地区 (大阪神ビル・新阪急ビル建替え 2022年竣工予定)



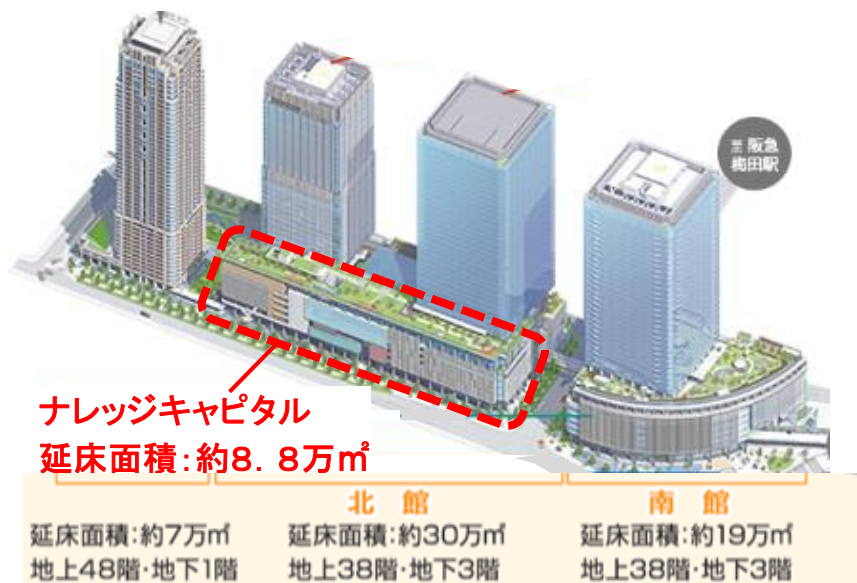
道路の重複利用制度を活用し、情報発信の場、人材育成の場となるカンファレンスゾーンをワンフロアで一体整備予定



都市再生制度等を活用した民間開発の取り組みと制度の効果(3)

2. 知の集積～知の集積と交流～(2)

○うめきた地区先行開発(グランフロント大阪)



<ビジネス機会の創出>

GLM (株)
電気自動車を開発・出展して
約100億円の資金を調達



電気自動車「Tommykaira ZZ」

(株) ミッドウェーソフトウェアデザインズ
サロンでの出会いから小学生が運用
できる図書館受付ロボットを開発



図書館受付AIロボット「雪丸」

<「知的交流」のワンストップサービス>

- ◆ナレッジサロン
～出会いと交流を通じ新たな
価値創造をめざすサロン
- ◆コラボオフィス
～コラボレーションを目的
とした活動拠点
- ◆ナレッジオフィス
～人材・知財・情報の集積
するオフィス



- ◆ナレッジシアター
～舞台公演からビジネスに
まで対応可能(380席)
- ◆The. Lab
～先端技術に触れて体験
する交流施設
- ◆ヒューチャーライフ
ショールーム
～体験型のショールーム



- ◆コンベンションセンター
～最大3,000名規模にできる
本格的コンベンション施設
- ◆カンファレンスルーム
～セミナー・研修・説明会など
に対応する貸会議室



出典:「ナレッジキャピタル ファクトシート」
(一社)ナレッジキャピタル、(株)KMO

大阪イノベーションハブ (OIH)について (1)

- 大阪市が2013年4月に開設したイノベーション創出支援施設(ナレッジキャピタル内に賃借した約600㎡の施設)
- イノベーションを起こすためのプラットフォーム(出会いと連携の場)でプロジェクト創出をサポート
 - 起業家および連携パートナーを発掘し、事業創出を支援
 - 年間270本以上のイベントを開催し、15,000人以上を集客

【主な取り組み(例)】

◎ピッチイベント「モーニングミートアップ」(年間約50回)

- 登壇者: 起業家(主に初期成長段階)や既存の中小企業の新規事業開発者
- 聴衆: VC等の投資家、メディア、大企業など



◎アイデアソン、ハッカソン(年間約15回)

～企業や社会の課題解決に向けた開発型ワークショップ

- ABC(朝日放送)ハッカソン

- ・チーム組成 → アイデアソン → ハッカソン → テレビ放映
- ・8つのチームが2日間徹夜で試作品を開発

- オリンパス・オープンプラットフォーム・カメラ・アイデアソン

- ・エンジニア、クリエイター、デザイナーから成る6チームを組成
- ・新型カメラの全く新しい活用方法を探る



大阪イノベーションハブ (OIH)について (2)

【主な取り組み(例)】

◎オープンイノベーション「イノベーションエクステンジ」
～大企業が自社の技術・開発上の課題を示して、これらの解決に挑むベンチャーとの協業を促進



<アシックス>



<アイシン精機>

◎OIH シードアクセラレーションプログラム (OSAP)
～初期ベンチャーへの4ヶ月間の集中育成プログラム
(約100人のメンター陣(大企業、投資家など)が「大企業との事業連携」や「資金調達」を後押し)

—成果(2016年4月～2018年11月)

サポートしたベンチャー(10社 × 5期)

資金調達額 ⇒ 31億円以上

大企業との提携 ⇒ 35例

メディアへの掲載 ⇒ 137回



◎Kansai Students Pitch Grand Prix2018

～関西の主要大学の代表チームが起業家・金融機関・VCの前でプレゼンテーションを行い、グランプリを競う



今後のイノベーション創出に向けて

【大阪の成長戦略（2018年3月改訂 大阪府・大阪市）】

<背景>

- ・健康・医療関連産業は、今後高齢化が進むアジアを含め世界的に伸びる市場
- ・医薬品・医療機器産業は、他産業への波及が大きく、景気の変動に左右されにくい特徴
- ・大阪・関西には、スポーツや食をはじめとするヘルスケア分野など、健康に関わる産業が幅広く集積

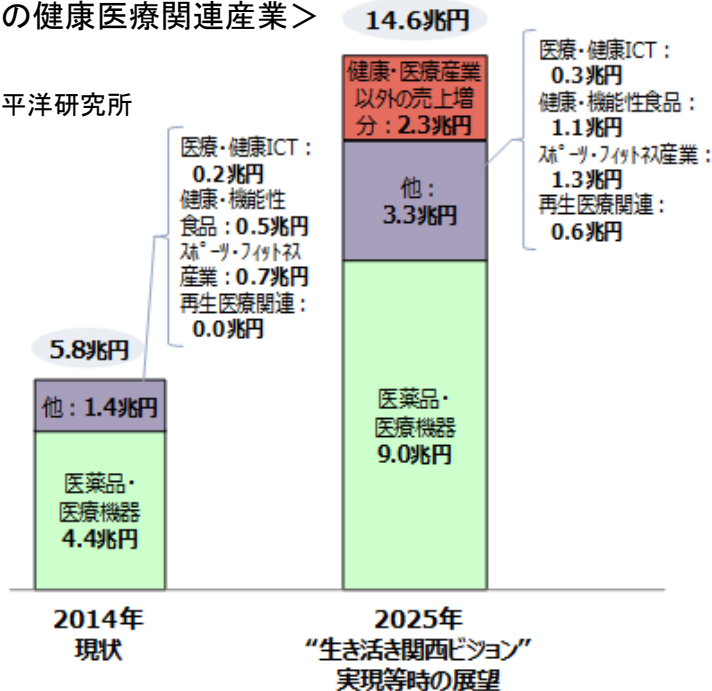
<今後取組むべきポイント>

- ・大阪が強みを有する分野で最先端の次世代産業を育成し、高所得をあげる
- ・大阪・関西のライフサイエンスのポテンシャルを活かし、裾野の広い重層的な産業を創出

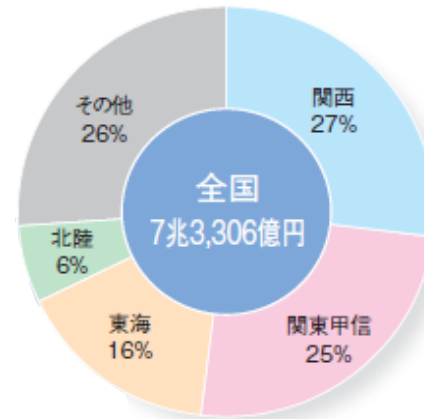
**健康・医療関連産業の
世界的なクラスター形成**

<参考：関西の健康医療関連産業>

資料：アジア太平洋研究所



<参考：エリア別の医薬製造品出荷額（2010年）>



順位	県名	製造品出荷額 (百万円)	全国 シェア
1位	大阪	776,268	10.6%
2位	埼玉	690,198	9.4%
3位	滋賀	570,453	7.8%
4位	兵庫	512,263	7.0%
5位	徳島	415,065	5.7%

資料：「日本政策投資銀行」調査レポート

ライフサイエンス分野の強化に向けて

うめきた2期

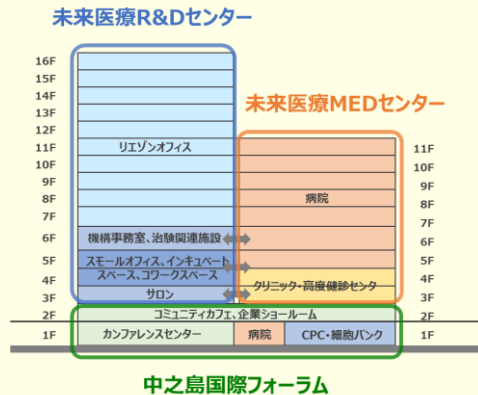
ライフデザイン・イノベーション(2024年～)

「みどり」空間を活用し、健康で豊かに生きるための幅広い新製品・サービスを創出する「みどりとイノベーションの融合拠点」を形成



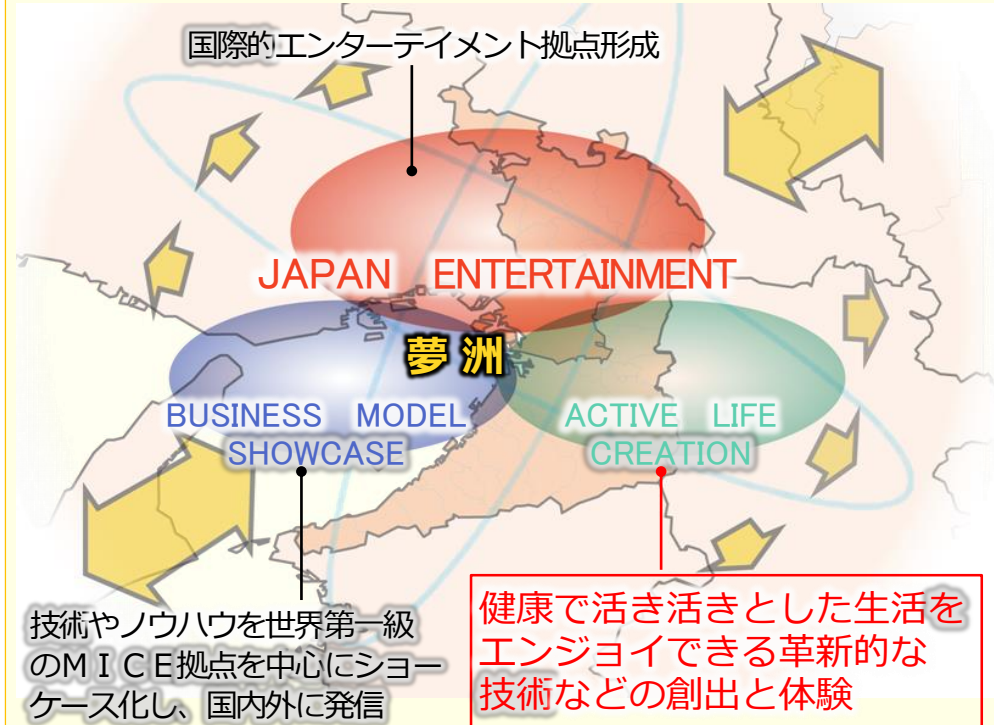
中之島四丁目 未来医療拠点(2024年)

未来医療R&Dセンター、未来医療MEDセンター、国際フォーラムを整備し、未来医療技術の産業化とその提供による国際貢献を推進



夢洲

「SMART RESORT CITY」(2024年～)



万博 ~いのち輝く未来社会のデザイン~(2025年)



② 「うめきた」 2期開発の中核機能

うめきた地区の概要

【区域図】

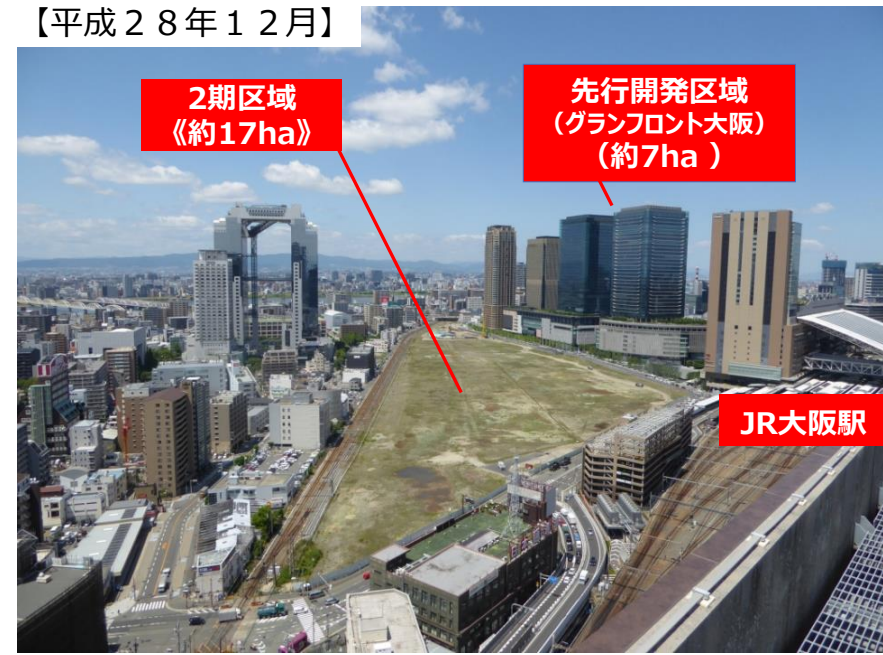


- 大阪駅に隣接する貨物駅跡地 約24ha
- 1期（先行開発約7ha）は2013年に開業
- 2期（約17ha）は2024年に概ね開業予定

【平成16年7月】

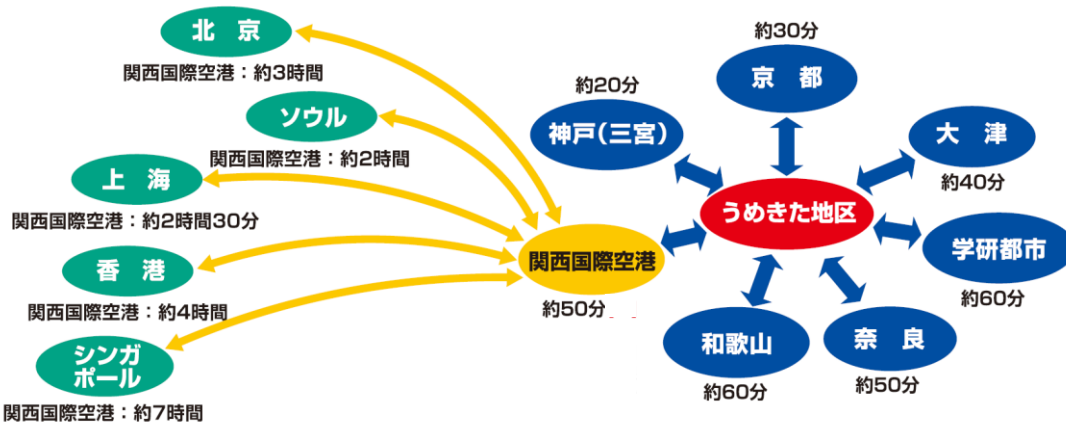
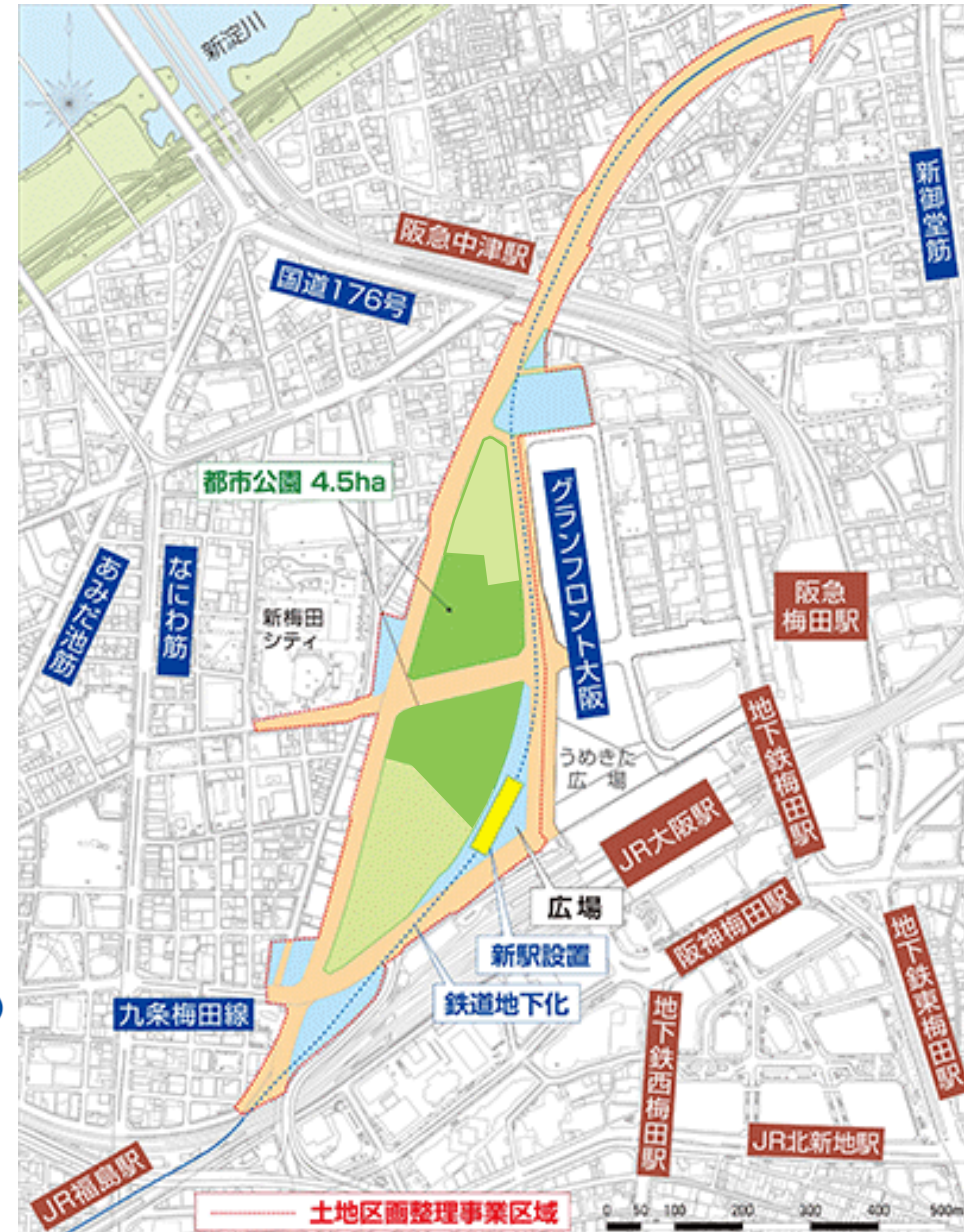


【平成28年12月】



うめきた(大阪駅周辺地区)の特性と都市基盤

- 7つの鉄道駅が集中し、1日約250万人の乗降客がある西日本屈指のターミナル地区
- 京都や神戸に30分以内でアクセス可能で、うめきた地区に建設中の新駅ができると関西国際空港へも約50分で直結
- うめきた開発に合わせて、土地区画整理事業により、道路や交通広場等を整備予定



「まちづくりの方針」（2015年3月 都市再生緊急整備協議会会議大阪駅周辺地域部会にて決定）



新産業創出

～新たなビジネスチャンスの創出～
参加型実証研究、ビッグデータ活用、プレマーケティング

国際集客・交流

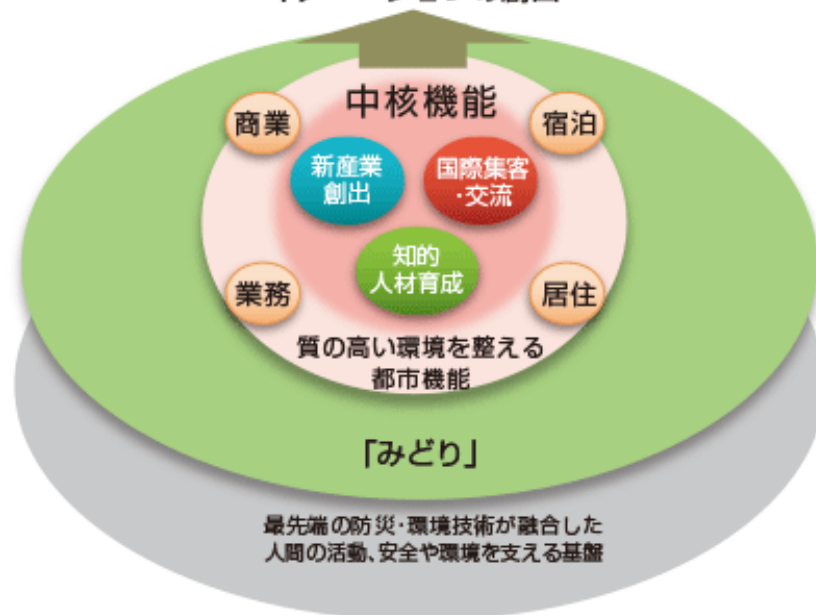
～まちと一体化する交流空間～
屋外空間も活用したイベント・展示、レセプション

知的人材育成

～交流による多様な気づき～
プロジェクトを通じた学び、実践的プログラムの実施

*第8回大阪駅周辺地域部会資料より抜粋

イノベーションの創出

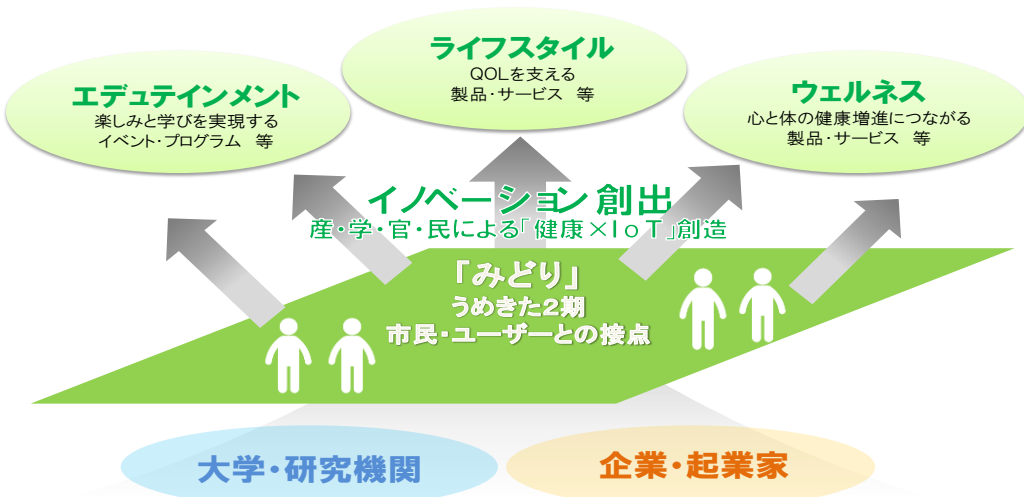


ライフデザイン・イノベーション

—新産業創出（イメージ）—

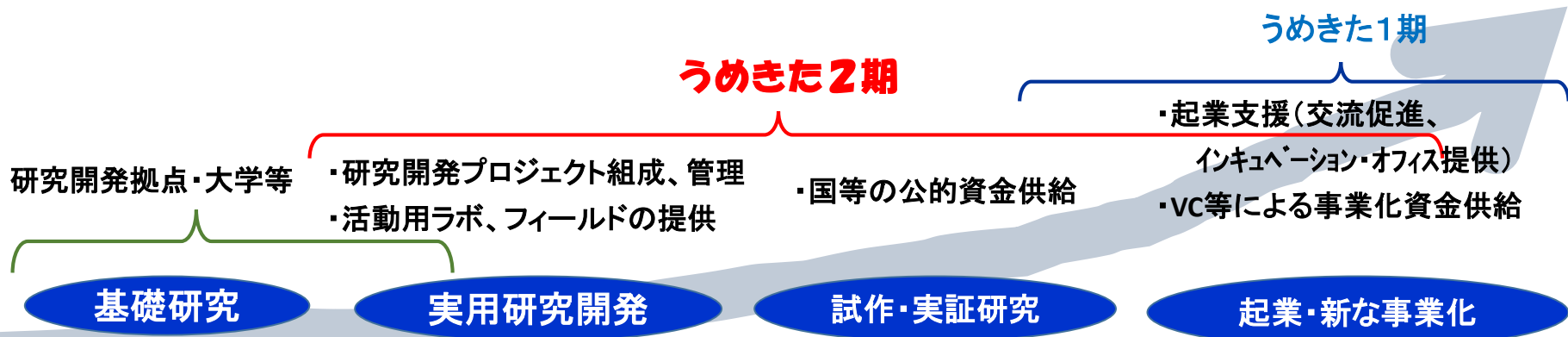
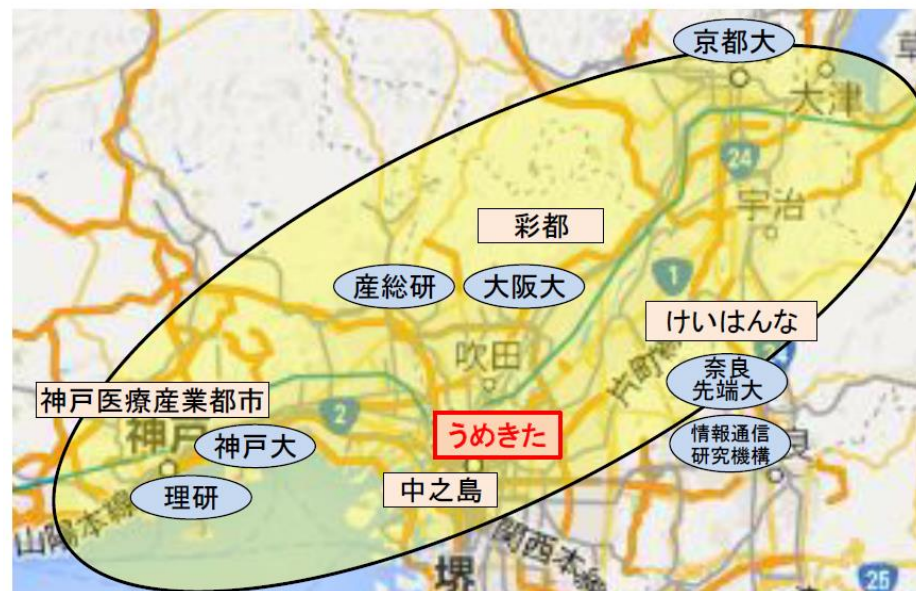
【新産業創出のテーマ＝ライフデザイン・イノベーション】

～IoTやビッグデータ等を活用し、創薬や医療機器開発だけでなく健康で豊かに生きるための新製品・サービスを創造



【実現をめざす機能＝技術の「橋渡し」】

～関西の技術と人が集まるイノベーションプラットフォームを構築し、研究から実用化まで切れ目なく支援



開発事業者の提案概要(全体コンセプト)

■ 開発事業者 **三菱地所株式会社** を代表者とするグループ (2018年7月決定)

■ まちづくりのコンセプト: **希望の杜** Osaka "MIDORI" LIFE 2070の創造



開発事業者の提案概要(土地利用計画)

北街区

中核機能と宿泊機能を配置し、先行開発区域と連携する新産業創出と産学官民の交流ゾーン

都市公園

[北部分]

市寄附金整備区域を含む緑豊かな憩いのゾーン

[南部分]

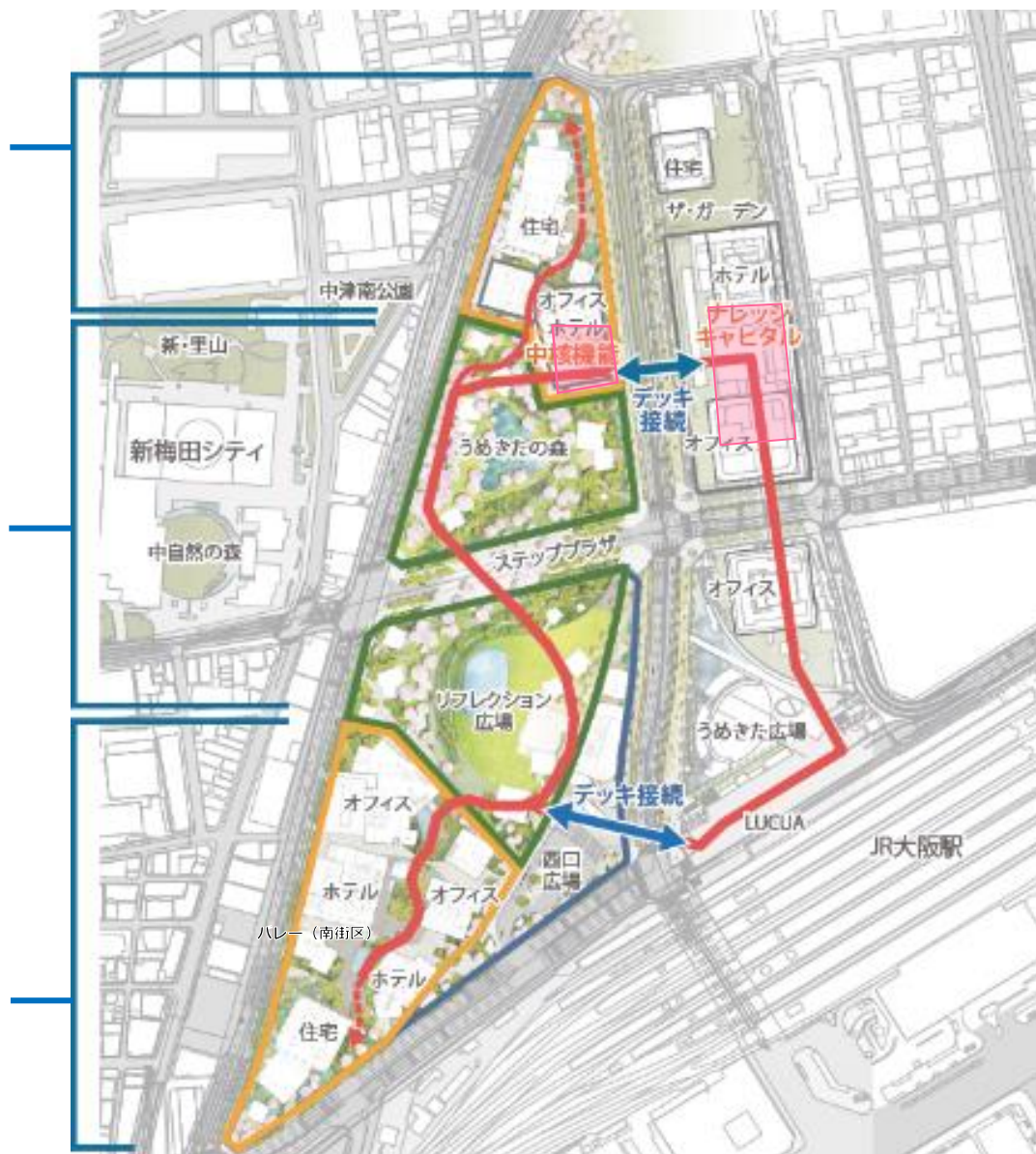
広場を中心に多くの人が集い多彩な活動ある賑わいゾーン

[賑わい軸 (東西軸)]

公園と連続する広場空間として南北を一体化

南街区

国際集客・交流に資する業務・商業・宿泊・MICE施設を配置し、世界からのビジネス・観光を促す高度複合都市機能集積ゾーン



開発事業者の提案概要（中核機能の施設配置）

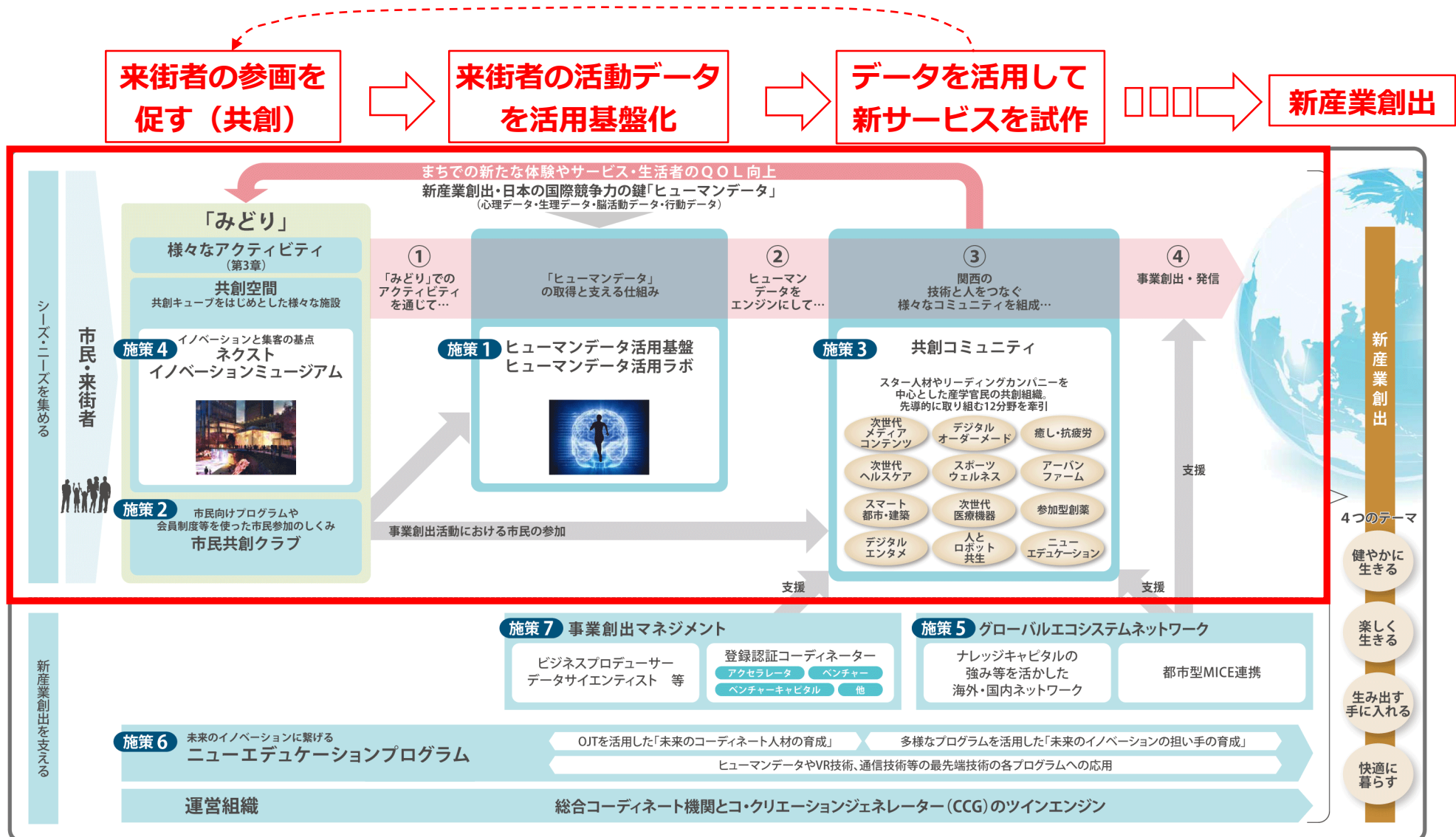


開発事業者の提案概要（イノベーション創出のコンセプト）



開発事業者の提案概要（中核機能における活動計画）

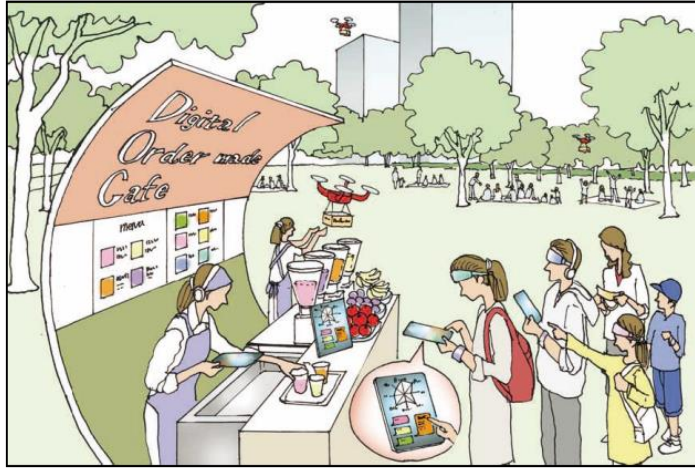
人が多く実証フィールド（公園）のある「うめきた」の特長を活かしてデータ活用基盤を整備



開発事業者の提案概要（中核機能における活動 具体イメージ）

例：「デジタルオーダーメイド」サービス

①事前同意した会員のヒューマンデータを取得

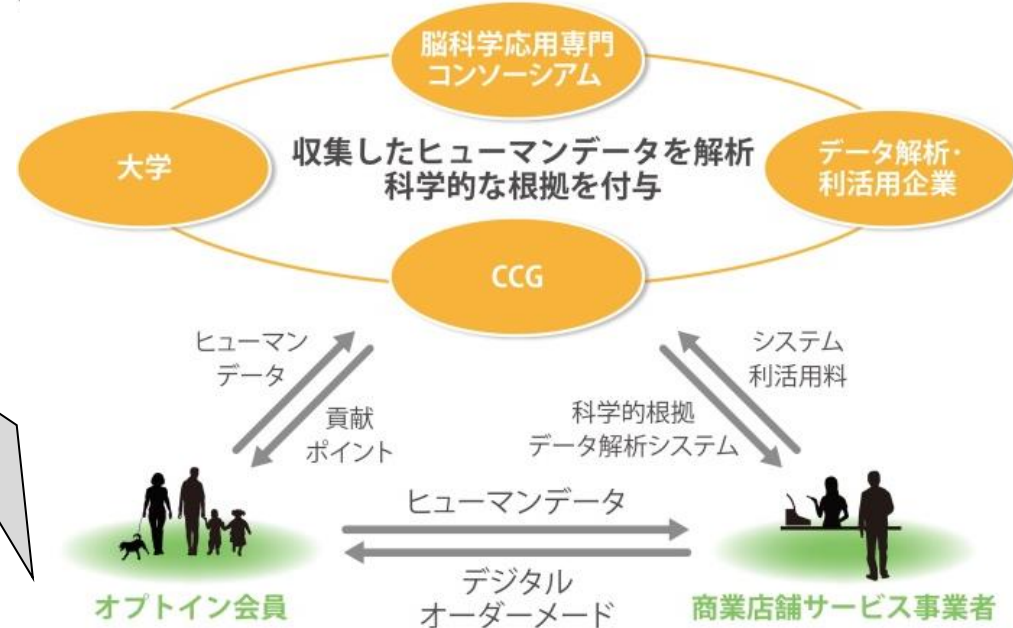


脳活動データを取得しながらの購買体験（イメージ）

②蓄積された顧客ごとのニーズデータを整理・一元基盤化



③専門家や大学、企業などが参画する「共創コミュニティ」がデータを解析して真のニーズを提示



うめきた2期開発 今後のスケジュール

- 2018年7月 2期区域の民間開発事業者が決定
- 2023年春 うめきた新駅が開業
- 2024年 2期区域の大部分が開業（先行まちびらき）
（2025年 大阪・関西万国博覧会）
- 2027年春 2期全体まちびらき（基盤整備完了）



ご静聴ありがとうございました